

教育目標(めざす児童生徒像) ゆたかな心 たしかな学力 たかくらの子 めざす子ども像 ・考える子ども ・助け合う子ども ・やりぬく子ども	今年度の指導の重点 (1)心の教育の充実 ・自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、人間関係力を育てる。・「高倉のあたりまえ」を通して規律正しく協調性のある子どもを育てる。 (2)たしかな学力の育成 ・主体的に学ぶ態度を育て、基礎学力の定着を図る。・「聞く力・書く力・伝える力」を身に付けさせる。 (3)健やかな体の育成 ・運動の機会を充実させ、体力向上を図る。・保護者とともに望ましい生活習慣の定着を図る。
------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語Aについては県平均と比べると正答率が高い。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率が特に高い。 ○算数Aは県平均。「図形」の分野がよくできていた。 ○国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率は低い。 ○国語B、算数Bとも「記述式」の問題に課題がある。 県(3～5年) ○3年は国語・算数とも基礎活用において全ての項目で県平均を上回っている。 ○4年は国語・算数ともほぼ県平均であった。国語の「思考力、判断力」に課題がある。 ○5年は、4年11月の県学力定着状況調査の結果より、大きく伸びがみられた。国語は「基礎」「表現力」の項目が大きく伸びた。算数は全体的に伸びは見えるものの、県平均には届かなかった。 ○「観点別」正答率分析によると、学校として共通する課題は「書く力」「読む力」「数学的な考え方」等である。 ※本校の特徴的な傾向 ・算数A 5÷9の商を分数で表す。本校60%(全国69.2%) ・算数A 高さが等しい平行四辺形と三角形について底辺と面積の関係を理解している。本校50%(全国67.0%) ・国語B 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える。本校50%(全国75.9%)	【学習状況調査の結果】 ○県・全国の平均より高い項目 ・自分にはよいところがあると思いますか。 ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 ・地域の行事に参加していますか。 ・学校のきまりを守っていますか。 ・家の人は授業参観や運動会などの学校行事に来ますか。 ○県・全国平均より低いもの ・学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか。 ・読書は好きですか。 ※読書習慣が定着していない児童の中に、読解力や表現力に課題が見られる。 ○津山市の取組 ①テレビの視聴時間は短い。視聴時間が1日当たり3時間以上は県平均に比べて非常に低い。 ②家庭学習の時間1日当たり1時間以上は全員が行っている。2時間以上3時間未満が一番多い。家庭学習の習慣がついていると言える。 ③読書時間は、全く読まない子もおり、読書時間に課題がある。 ④あいさつは、児童会を中心に年間を通して取り組んでいる。「あいさつハイタッチ」として定着している。 ・中道中ブロックで取り組んだ「携帯電話・スマホ」の調査では、「携帯・スマホの使用時間が2時間以上」の児童も県平均程度いた。

成果	課題
○全国(6年)算数Aは、無解答がなく意欲的に取り組み、ほぼ全国平均であった。朝のモジュール学習が子どもたちに定着し、集中して根気強く課題に取り組む姿勢が身に付いてきた効果だと考える。 ○問題データベースを授業の予習・復習、家庭学習、放課後学習で利用し、基礎基本の定着に役立てた。 ○全国(6年)国語Aの漢字の読み書きは、6項目すべてにおいて、全国平均を上回った。国語Aは、平均正答率が全国より7ポイント高く、昨年度より5ポイント伸びた。宿題として毎日漢字練習に取り組み、誤字を直すことを全員に徹底させた効果が大きかった。 ○放課後ののびのびタイムでは、全校で年間を通して、算数の復習をしてきた。基礎基本の定着に繋がった。 ○3～5年の県テストについて、「学年の課題」と「一人ひとりの児童の課題」について、全職員で分析し、授業改善や個別指導に役立てた。	○国語ABに共通して、「読み取る」「書く」ことに課題がある。(28年度と同じ) ○「のびのびタイム」では、主に算数の復習をしてきた。しかし、全国(6年)では、「乗法」「商と分数の関係」「資料を分類整理する」ことに課題が見られた。 ○国語Bは、全国平均に届かなかった。「読む能力」「記述式問題」に課題がある。 ○算数Bは、全国平均に届かなかった。「数量や図形についての知識・理解」は、県・全国平均以上。「数学的な考え方」は、県・全国平均値に届かなかった。また、「理由を記述する」ことに課題がある。 ○毎時間の授業の改善と工夫

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
落ちついた学習環境の継続	2学期末	3大課題に全教職員で取り組む ・学習準備 ・姿勢 ・聞き方「あいいうお」	・チェックシートにより、毎学期評価を行う。 ・全職員で分析、問題点を明らかにし、学級で取り組むこと、全校で取り組むことなどを整理した上で、具体的に「めあて」を決め、取り組む。	・チェックシートにより、2学期末に再度見直しをした。学習準備、姿勢については改善・向上が見られるが、「聞き方」については課題が残った。	B	・「聞き方」の定着のために、授業、全校での集会、卒業式の練習など全職員で取り組み、成果が見られた。	A	・本校研究テーマ「自分の思いや考えを持ち、生き生きと伝え合う子どもたちの育成」を目指して、「伝える」ことに重点をおいた取組を進めていく。
基礎学力の充実と「考えを書く」「考えを説明する」「最後まで聞く、話す」などの表現力を高める。	3学期末	全国・県学力状況調査で、国語AB、算数ABが全国平均に届くようにする。	・朝モジュールや「のびのびタイム」で基礎基本の問題や、定着率の低い課題に対応する問題に取り組む。・全校で、発達段階に応じて、読書の工夫と習慣化に取り組む。・授業で「説明する、文章で表す」場面を多く設定する。・授業内容とリンクさせた家庭学習の充実に取り組む。・県ふりかえりプリント集、問題データベースを活用し、「考えを文章で説明する」活動に取り組ませる。	・秋チェックテストを3年以上で行い、前年度の学習内容の確かめができた。漢字・計算などの基礎基本の問題は正答率が高い。一方で、「読み取る」「説明する」問題に課題があった。更なる授業改善と個別指導に取り組む。	B	・秋チェックテストの反省から課題を見つけ、授業改革推進員の分析・指導も得て、自分の考えを的確な言葉で表現するなどの記述問題に取り組んだ。 ・「週末チャレンジ」や「問題データベース」に取り組むなど基礎基本の定着に取り組んだ。	B	・5年生「NRTテスト」と「NRTテストとQ-Uテストのクロス集計」の反省、1年生・2年生「NRTテスト」(本校独自)などの結果を生かしながら、本校全体としての課題、学年の課題、一人ひとりの課題を分析し、授業改善に取り組んでいく。また、「岡山型学習指導のスタンダード」に基づき、「自分で考え、表現する時間を確保する」授業に取り組む。
児童理解に努め、一人ひとりの達成感、満足感を大切にする。	3学期末	児童一人ひとりと面談し、子どもの思いを知り、全職員で「チーム」として高倉の子どもを育てていく。	・生活アンケートを毎学期実施し、一人ひとりと面談し、子どもの気持ちに寄り添い支援していく。 ・運動会、学習発表会等の行事に際しては、育てたい児童像を全教職員で共通理解して取組を推進し、行事を通して児童を育てていく。・委員会活動や集会等での児童の活躍を積極的に見取って称揚し、自己肯定感を高めるように努める。	・更なる児童理解を進めるために、2学期末に全学年でQ-Uテストを行い、「学校生活における児童個々の意欲や満足感、学級集団の状態について」全職員で考察・研修を行い具体的な取組を始めた。	B	・「Q-U楽しい学校生活を送るためのアンケート」と「生活アンケート」をもとに児童一人ひとりに教育相談を行い、児童の実態と変容を全教職員で把握することができた。	B	・子どもたちのよいところや頑張っていることに気づき、自信を持たせる。 ・早急に子どもたちの変化に気づき、児童や保護者に寄り添った指導・支援ができる教職員チームであるように日ごろから心がけ、情報交流をしておく。

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○中道中ブロック共通の取組として、学習状況調査の中から6項目(①「テレビの視聴時間」(1日当たり3時間以上)、②家庭学習の時間(1日当たり1時間以上)、③家庭学習の時間(家庭で全くしない)、④読書時間(全く読まない)、⑤携帯電話・スマホを持っていない、⑥携帯電話・スマホの使用時間(2時間以上))について調べ、ブロックとしての問題点を見つけ、取り組んでいく。本校では家庭学習の「1日当たり1時間以上」は100%であり、家庭学習の習慣が定着している。テレビの視聴時間も比較的短く、1日当たり3時間以上は、18.2%であった。(全国32.7%)	○家庭学習のスタンダードを学級通信や学級懇談で呼びかける。 ○中道中学校のテスト週間に合わせて、「生活リズムチャレンジシート」の取組をする。各家庭で「家庭学習」「お手伝い」「メディア時間」などの約束を決め、親子で話し合う時間をもつよう呼びかける。 ○本年度新たに「音読のてびき」を作成し、家庭に「音読」の意義を理解してもらい、家庭学習の一つとして取り組んでもらう。